

小規模校化による問題点の考察

① 集団教育が阻害される

○「生きる力を育む教育」を推進

※ 学校の集団活動を通じて

⇒ 人間関係の大切さを学び、集団ルールを学習する。

小規模校では

① 様々な児童生徒と交流する機会が少ない。

② 学級間で切磋琢磨しようとする意欲も育ちにくい。

☆ 多様な考えや価値観を持った児童生徒との出会いが少なくなるため、知的刺激が少なくなる。また、授業での多様な回答が得られにくくなる。

☆ 集団教育が阻害されるといった問題が発生する小規模校の境界が何学級からとは断言はできないが（小規模校なりに学習効果が上がっている側面もある。）、一学年の学級数が少ないと、学級編成をしても人間関係が固定化される面がある。

◎ 問題の解決

一定の学校規模が必要

⇒ 学級数の増加により

① 児童生徒同士の出会いも広がり、人間関係にも広がりが期待できる。

② 学級間の交流も活性化し、互いに切磋琢磨しようとする意欲も高まる。

③ 人間関係の大切さや集団としてのルールをより学ぶことができる。

② 教科学習や指導が不十分になる

○「生きる力を育む教育」を推進

※ 教科学習を通じて、総合的な学習の時間などを通して

⇒ 指導を工夫し、基礎的な学力の定着を図る。

⇒ 自ら学び考える力などの確かな学力を育成する。

小規模校では

①教員数も少なく、一人の教員が分掌する校務が増える。

②担当教員が一人の教科が増え、教科学習に関する打合せの機会が少なくなる。

③教科担当が一人では、指導をする体制がとりづらい。

④校外学習の実施の際、引率する教員の数に限界がある。

⑤クラス替えも限られた中で行うため、互いに刺激、学習意欲を高めることも期待しにくい。

☆小規模校では、技能教科で専門の職員が配置されない可能性が生じる。

◎ 問題の解決

一定の学校規模が必要

⇒ 教員数の増加により

①一人の教員が分掌する校務が減る。

②少人数指導体制が確保できる。

③引率する教員も増え、校外学習も行いやすくなる。

⇒ 学級数の増加により

①学級間の交流の幅が広がり、互いに切磋琢磨しようとする意欲も高まる。

②これらを通じて、児童生徒の学習意欲を喚起できる。

③ 学校行事や部活動が充実しない

○「魅力ある教育環境づくり」を推進

※ 運動会等の学校行事や部活動を通じて

⇒ 集団としての連帯意識や向上心を養う。

⇒ 児童生徒の個々の資質や能力等の醸成を図っていく。

小規模校では

①児童生徒数や学級数に限りがあり、運動会の種目が制限され、学級間の対抗戦にも盛り上がりが欠ける。

②部活動でも、指導教員の有無や部員数の確保の可否により、部活動に制約が生じ、生徒の希望に応じにくい。

☆学校行事の際、準備や後片付けなどで生徒の負担感が強くなることが生じる。

◎ 問題の解決

一定の学校規模が必要

⇒ 生徒数や学級数の増加により

①運動会で実施できる種目の幅が広がり、学級間の対抗戦も盛り上がり、学校行事の活性化が図れる。

⇒ 教員数の増加により

①指導できる部活動の数も増え、生徒の希望にかなう可能性が高まり、部活動の活性化が図れる。

④ 学校施設が充実しない

○「魅力ある教育環境づくり」を推進

※ 学校施設を計画的に改築、改修を進め、児童生徒が安全に快適に学習できる環境を整える。

⇒ すべての施設を改築又は改修する。

①長期の取組みが必要（学校数に応じた改築・改修計画の取組期間と、それに伴う財政支出が必要となる。）

◎ 問題の解決

学校の規模の適正化、配置の見直し

⇒ 学校数の削減により

①校舎等の改築や改修をより計画的に推進

☆学校数の減少により、改築・改修に係る期間の短縮及び財政支出の削減を図ることが可能となる。

⑤地域社会との連携がうまく図れない

○「学校・家庭・地域社会の連携づくり」を推進

※ 学校情報の積極的な発信、地域のコミュニティーセンターとしての役割を果たすため、公開講座の開催、学校施設の開放、地域の行事への協力、防災拠点としての活用等を通じて

⇒ 学校が持つ人的、物的な資源を地域社会の中で生かす。

※ 学校評議員や学校支援ボランティア等を通じて

⇒ 地域の人的な資源等を学校運営の中に取り入れる。

小規模校では

①教員の数に限られるため、地域の要望に十分に応えにくい。

②通学区が地域の一部に偏っているため、地域全体の連携がとりにくい。

③地域の人的資源の活用も一部に限られる。

☆PTA活動で、一人当たりの活動量が多くなるなど負担が増える可能性が生じる。

◎ 問題の解決

一定の学校規模が必要

⇒ 教員数の増加により

①地域社会の要請に応えやすくなる。

⇒ 通学区が広がることにより

①地域社会との連携も図りやすくなる。

《解決案》

- ・ **学校統廃合**

- ・ **通学区域の変更・拡大**

通学区域の変更・拡大については、周辺の小学校も児童数が減少してきているなかでは、通学区域の変更・拡大によって、他の学校の更なる小規模校化が進むこととなることから難しい面がある。

- ・ **狭山市独自の少人数学級の導入**

狭山市独自の少人数学級の導入により学級数を増やすためには、新たに必要となる教員を狭山市が独自に採用する必要があることから、新たな財政負担が生じるほか、人事管理上も支障があり、難しい面がある。